

令和7年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

函城中学校区 校番 20 学校名 港町小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	確かな学力の向上 ①学力の向上	基礎・基本の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科・算数科市販テスト「知識・技能」平均到達率は、84%であった。学習の「あしあと」を掲示物として教室内に残し、児童がいつでも振り返ることができる環境にすることで、苦手な児童もその掲示物を活用して学習を進めることができた。しかし、漢字や言葉の知識・技能が身に付いていない児童が多く、基礎・基本の徹底をしていく必要がある。 ・スキルタイムを週2回に増やし、担任外も個別指導に加わることで、実態に応じたきめ細かい指導をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も学習の「あしあと」を掲示物として残すなど、児童が自ら学習を進めることができる環境を整える。 ・漢字の直しを丁寧に行わせる指導を通して、漢字や言葉の基礎的な知識・技能の定着を図る。 ・学年間でスキルタイムの内容やQubenaの活用方法を交流することで、指導の質を高め、スキルタイムのさらなる充実を図る。
		思考力・判断力・表現力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科・算数科市販テスト「思考力・判断力・表現力」平均到達率は、80%であった。思考を促す発問や問題提示を工夫することで、1学期と比べて数値の向上が見られた。 ・聞き取りテストの結果が低い学年が多く、話を聞きながらメモを取ることを苦手とする児童が見られるなど聞く力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童同士の発表を聞き合わせたり、理解の程度をその都度確認しながら授業を進めたりすることで、話を聞いて考える場面を意図的に設定し、聞く力の向上を図る。 ・標準学力調査や全国学力・学習状況調査の結果が活用されていないため、各学年の分析を考慮した授業改善ができるようにする。
**	豊かな心の育成 ①自尊感情の向上	自他を大切に認め合う児童の育成【いじめの防止】	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校に行くのは楽しいですか。」という児童アンケートでの肯定的な回答は、95%であった。ほめほめカードなど児童同士で相手を認める活動を行うことで、自己存在感を感じてきた。 ・児童集会では、6年生が相手意識をもって準備をしたり、5年生が縦割り班のリーダーとして班をまとめたりする姿が見られた。 ・相手の良いところを言葉で伝えることが苦手な児童や、活動自体に消極的な児童も見られ、支援の工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードに書かれた友達のよいところを全体に共有するなど、発信の仕方を工夫することで、相手の良さに気付き、それを言葉で伝える力の育成を図っていく。 ・大和ミュージアムの見学や「6年生ありがとう集会」などの行事について、相手意識をもたせて活動させることで、協働性を高めていく。
		主体的に行動できる児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。」という児童アンケートでの肯定的な回答は、100%であった。低学年用・高学年用のいじめ撲滅のための動画を児童主体で作成したことで、児童一人一人が自分事として捉えることができた。 ・バスの乗り方については、基本的なルールが身に付いている児童が多いものの、一部に迷惑行為が見られた。また、相手を傷つける言動を行う児童も一定数おり、継続的な指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室内だけでなく休憩時間なども含め、見守りを継続することで、いじめを「しない」「させない」「許さない」という風土を醸成していく。 ・バスの乗り方や相手に対する言動について、なぜ大切なのか理由を伝えながら継続して指導していく。
*	健やかな体の育成 ①生きる力の向上	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「めあてに向かって行動することができましたか。」という児童アンケートでの肯定的な回答は、97%であった。朝会の際に、生活目標について委員会の児童に発表する機会を設けたことで、児童が主体的に目標を意識し、行動する場を確保できた。 ・あいさつについては、進んで行う姿が十分に見られず、行動として定着していないことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの効果的な取組は継続しつつ、児童の発達段階に応じたサーキット運動の実施や音楽を活用した3分間走など、体力向上を目的とした活動を取り入れる。 ・体を動かす機会を日常的に確保するため、「1日1回外遊び」について全校に周知し、休憩時間に少なくとも1回は外に出て遊びことを継続して指導していく。
		「自分の命は自分で守る」力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・「運動やスポーツをすることは好きですか。」という児童アンケートでの肯定的な回答は、92%であった。体育委員会による「反復横跳びチャレンジ」や「くれ・チャレンジマッチ」、「ロードレース大会」などの取組に意欲的に参加する児童が多く、運動をすることを肯定的に捉える機会となった。 ・ロードレース大会の様子から、スクールバスでの登下校が中心となっている低学年児童において、体力や走り面で課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早寝・早起き・朝ご飯・排便の項目が毎日できた児童の割合は70%であった。睡眠に特化した保健指導を重点的に行ったことや、栄養教諭による朝食指導を実施したことにより、特に睡眠と朝食に関する意識や行動の改善が見られた。 ・各学級の結果のデータを活用し、懇談会などで家庭と生活習慣について共有することができた。
業務改善	教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	児童と向き合う時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌の整理や会議時間の短縮、ICTの活用により、授業準備や児童理解に充てる時間を意識的に確保することができた。 ・学習や生活面で支援を要する児童への関わりが丁寧になり、早期対応につながる場面が見られた。 ・行事前後や生徒指導対応により、十分な時間を確保できない状況も一部あった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や会議の精選・見直しを進め、年間を通じた業務の平準化を図る。 ・ICTを活用した情報共有を進め、事務作業の効率化により児童と向き合う時間を確保する。 ・学年・分掌間の役割分担を明確にし、指導に専念できる体制を整える。
		長時間勤務の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が住む地域に起こりやすい災害について理解している児童と災害時に避難する場所や避難の仕方について理解している児童の割合は99%であった。学級での指導においてVRを活用したことで、より自分事として考えられた。 ・2学期にも大雨を想定した指導の機会を設けることで、防災に関する学習を継続的に行うことができた。 ・防災に関する授業の取り組み状況に学級間で差が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して避難訓練や事前指導を実施するとともに、予告なしの訓練など実施方法を工夫しながら実践的な防災意識の向上を図る。 ・教員研修において「呉市防災教育の手引き」を活用した授業内容を共有・整理し、全学級で確実に実施できる体制を整える。
業務改善	教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	長時間勤務の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退校日の設定や業務の見える化により、教職員の時間意識が高まり、一定の改善が見られた。 ・会議の精選や資料の電子化により、業務の効率化が進んだ。 ・行事等が重なる時期には、時間外勤務が増加する傾向が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や業務を見直し、分担の工夫により業務の集中を防ぐ。 ・会議や文書の精選を継続し、業務の効率化を図る。 ・勤務状況を把握し、必要に応じて業務調整を行う。